



2026年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年9月11日

上場会社名 くら寿司株式会社 上場取引所 東
コード番号 2695 URL <https://www.kurasushi.co.jp/>
代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 田中 邦彦
問合せ先責任者 （役職名） 取締役広報・IR本部長 （氏名） 岡本 浩之 TEL 072-493-6189
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年10月期第3四半期の連結業績（2025年11月1日～2026年7月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年10月期第3四半期	189,684	4.4	2,845	△45.2	3,469	△37.7	2,030	△41.3
2025年10月期第3四半期	181,677	4.5	5,189	△18.4	5,571	△18.3	3,461	△22.1

（注）包括利益 2026年10月期第3四半期 5,086百万円（66.4％） 2025年10月期第3四半期 3,057百万円（△52.1％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年10月期第3四半期	25.54	25.53
2025年10月期第3四半期	43.55	43.53

（注）当社は、2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年10月期第3四半期	169,038	91,180	38.4
2025年10月期	156,015	86,258	40.0

（参考）自己資本 2026年10月期第3四半期 64,942百万円 2025年10月期 62,338百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年10月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2026年10月期	—	0.00	—		
2026年10月期（予想）				15.00	—

（注1）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

（注2）2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。上記の2026年10月期（予想）については、第2四半期末は分割前、期末は分割後の金額を記載しています。なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間配当金は30円です。

3. 2026年10月期の連結業績予想（2025年11月1日～2026年10月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	257,000	4.9	5,000	△8.4	5,200	△15.8	3,000	△16.8	37.74

（注1）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

（注2）2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。上記の1株当たり当期純利益については、当該株式分割を考慮した金額を記載しています。なお、当該株式分割を考慮しない場合は、75円48銭となります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年10月期 3 Q	82,799,200株	2025年10月期	82,799,200株
② 期末自己株式数	2026年10月期 3 Q	3,312,926株	2025年10月期	3,312,726株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年10月期 3 Q	79,486,274株	2025年10月期 3 Q	79,484,823株

(注) 当社は、2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提条件その他関連する事項につきましてはP3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2025年11月1日から2026年7月31日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境などの改善は見られるものの、中東情勢をはじめとする地政学的リスクの顕在化やエネルギー価格の変動、物価上昇の継続に伴う消費者マインドの弱含みなど、先行きは依然として不透明な状況にあります。外食産業全般におきましても、原材料価格や人件費の上昇など、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、特許技術である抗菌寿司カバー「鮮度くん」の活用に加え、お客様が入れ替わるごとに備品を交換する「クリーンテーブル」の徹底や、従業員の技術や接客等を競うコンテストを世界規模で開催し「現場力」を向上させ続けるなど、安心・安全で快適なお食事を提供するためのさまざまな取り組みを推進しております。

また、食べ終わったお寿司の皿5枚を各テーブルにある皿回収ポケットに入れるとゲームに挑戦でき、当たりが出ると景品がもらえる「ビックラポン!」は、当社を代表するシステムで、2000年の導入から今に至るまで大変人気となっております。さらに、大手回転寿司チェーンの中で唯一、回転レーンでお寿司を提供しているだけでなく、エンターテインメント性を常に進化させ続けており、楽しい食体験を追求しております。

店舗開発につきましては、国内10店舗、米国12店舗、アジア3店舗の計25店舗を出店いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、全て直営で712店舗（「無添蔵」6店舗、「くらおさかな市場」1店舗、米国91店舗、アジア63店舗を含む）となりました。

セグメント業績は次の通りであります。

① 日本

日本国内におきましては、都心部を中心にインバウンド需要が拡大する一方で、実質賃金の低下傾向が続くなど、消費者マインドの停滞が見られます。

このような中、商品面では、大とろや中とろなどが登場する「国産天然本まぐろ」や本ズワイガニや丸ズワイガニの盛り合わせを展開した「極上かに」など質の高い商品を中心にしたフェアの展開に加え、セントラルキッチンでの最新加工技術をいかした「超熟成シリーズ」、健康習慣をサポートする「食前の一皿シリーズ」も好調に推移いたしました。さらに、「KURAおさかなファーム株式会社」で推進するAIを活用した世界初といえる養殖技術により、人工種苗からは実現困難とされた約800gの大型サイズへの育成に成功した「大型生さば」を2026年5月に期間・店舗限定で販売し、脂乗りも抜群で大変好評いただきました。

販売促進面におきましては、アニメ「呪術廻戦」や「PEANUTS」などの人気コンテンツとのコラボ企画を実施したほか、2027年5月の創業50周年に先駆け、全店で「創業50年祭」のキャンペーンを開始いたしました。期間限定で「熟成中とろ」や「北海道サーモン」など魅力的な商品を特別価格で提供することや新たな取り組みとして「QRクーポンサービス」を導入し、数ある人気商品の中から一皿無料となるサービスを強力に推進することにより、新規お客様の獲得、既存のお客様の利用機会拡大に努めております。

原材料価格につきましては、お米価格のピークアウト感が見られるものの、依然として高い水準が続いております。商品ごとのきめ細やかな商品設計を継続的に実施し、原価率のコントロールに努めました。

出店につきましては、2026年5月に大阪・関西万博で展開した店舗体験をレガシーとして継承する新店舗「なんば千日前店」をオープンいたしました。同店では、当社史上最大規模となる座席数と回転ベルトを擁する空間、70か国を代表する料理を再現したメニューなど、ここでしか得られない体験の創出を図っております。

また、2026年7月にオープンした「無添蔵新宿店」は、当社のプレミアム回転寿司ブランドで、無添蔵としては過去最大規模の店舗となります。北海道・東北新幹線を活用した北海道産の朝め魚「新幹鮮魚」の提供や、業界初となるお寿司と日本茶のペアリングの提案などの新しい取り組みで非常にご好評いただいております。都心部への新たな出店形態として、今後も出店を進めてまいります。

当社におきましては、前事業年度に引き続き実質無借金にて運営しており、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は67.9%と財務の健全性を維持しております。

この結果、売上高1,309億30百万円（前年同期比1.2%減）、経常利益33億94百万円（前年同期比40.8%減）となりました。

② 北米

米国子会社 Kura Sushi USA, Inc. (KSU) におきましては、関税による原材料価格の上昇はありましたが、「たまごっち」や「崩壊：スターレイル」とのコラボ企画が奏功し、売上高は順調に推移いたしました。

出店につきましては、カリフォルニア州「オレンジ店」やテキサス州「デントン店」などを新規出店し、第3四半期累計で12店舗の新規出店となりました。年間16店舗の出店を目指し、引き続き積極的な店舗展開を推進しております。

この結果、売上高372億4百万円（前年同期比22.2%増）、経常損失6億45百万円（前年同期は経常損失5億96百万円）となりました。

③ アジア

台湾子会社 亞洲藏壽司股份有限公司 (KSA) におきましては、人気メニューを中心とした期間限定フェアの開催や、価格帯を8種類に拡大した商品展開によるメニューの魅力向上に努めました。加えて、「ハイキュー!!」や「DINOTAENG」とのコラボ企画、夏季限定メニューや新たな抹茶スイーツを提供する「夏旬満席」フェアの実施が集客に寄与し、売上高は好調に推移いたしました。

出店につきましては、台湾花蓮市に「花蓮自由店」を新規出店いたしました。

また、タイ王国における今後の店舗展開および事業基盤の構築を目的として、2026年7月に「Kura Sushi (Thailand) Co., Ltd.」を設立いたしました。

この結果、売上高218億45百万円（前年同期比15.1%増）、経常利益7億92百万円（前年同期比42.0%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,896億84百万円（前年同期比4.4%増）、経常利益34億69百万円（前年同期比37.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益20億30百万円（前年同期比41.3%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、1,690億38百万円となり、前連結会計年度末と比較して130億22百万円増加いたしました。これは、主に売掛金が15億26百万円、有形固定資産が148億64百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が40億53百万円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して81億1百万円増加し、778億58百万円となりました。これは、主に買掛金が5億24百万円、固定負債のリース債務が74億10百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、主に親会社株主に帰属する四半期純利益20億30百万円を計上したことに加え、為替換算調整勘定が13億69百万円、非支配株主持分が15億50百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して49億21百万円増加し、911億80百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月10日に公表いたしました業績予想につきまして、現在のところ変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,172	20,118
売掛金	6,296	7,823
有価証券	2,198	3,178
原材料及び貯蔵品	2,706	3,292
その他	2,625	2,613
流動資産合計	38,000	37,025
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	40,819	45,998
使用権資産（純額）	32,472	39,393
その他（純額）	23,088	25,852
有形固定資産合計	96,380	111,245
無形固定資産	2,027	2,041
投資その他の資産		
投資有価証券	4,340	3,470
長期貸付金	5,097	4,818
差入保証金	7,499	7,966
その他	2,669	2,470
投資その他の資産合計	19,606	18,725
固定資産合計	118,014	132,012
資産合計	156,015	169,038
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,450	8,974
短期借入金	1,172	765
未払金	9,882	10,141
未払法人税等	739	707
その他	9,923	10,089
流動負債合計	30,168	30,678
固定負債		
リース債務	34,704	42,114
資産除去債務	4,194	4,417
その他	688	646
固定負債合計	39,587	47,179
負債合計	69,756	77,858
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005	2,005
資本剰余金	14,489	14,489
利益剰余金	44,743	45,979
自己株式	△1,996	△1,996
株主資本合計	59,241	60,477
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1	△2
為替換算調整勘定	3,098	4,467
その他の包括利益累計額合計	3,096	4,465
新株予約権	2,633	3,400
非支配株主持分	21,286	22,837
純資産合計	86,258	91,180
負債純資産合計	156,015	169,038

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年7月31日)
売上高	181,677	189,684
売上原価	74,059	77,856
売上総利益	107,617	111,827
販売費及び一般管理費	102,428	108,982
営業利益	5,189	2,845
営業外収益		
受取利息	425	394
受取手数料	121	128
為替差益	-	181
雑収入	161	231
営業外収益合計	708	935
営業外費用		
支払利息	284	274
為替差損	20	-
雑損失	21	36
営業外費用合計	326	311
経常利益	5,571	3,469
特別損失		
固定資産除却損	77	87
店舗契約解約損	122	-
減損損失	259	53
特別損失合計	460	140
税金等調整前四半期純利益	5,111	3,328
法人税、住民税及び事業税	1,805	1,401
法人税等調整額	140	134
法人税等合計	1,946	1,535
四半期純利益	3,165	1,793
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△296	△237
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,461	2,030

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年7月31日)
四半期純利益	3,165	1,793
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	△2
為替換算調整勘定	△106	3,295
その他の包括利益合計	△107	3,292
四半期包括利益	3,057	5,086
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,593	3,604
非支配株主に係る四半期包括利益	△535	1,481

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年7月31日)
減価償却費	7,360百万円	7,696百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年11月1日 至 2025年7月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	132,254	30,448	18,973	181,677	—	181,677
外部顧客への売上高	132,254	30,448	18,973	181,677	—	181,677
セグメント間の内部 売上高又は振替高	235	—	—	235	△235	—
計	132,490	30,448	18,973	181,913	△235	181,677
セグメント利益又は 損失 (△)	5,735	△596	558	5,696	△125	5,571

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年11月1日 至 2026年7月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	130,634	37,204	21,845	189,684	—	189,684
外部顧客への売上高	130,634	37,204	21,845	189,684	—	189,684
セグメント間の内部 売上高又は振替高	295	—	—	295	△295	—
計	130,930	37,204	21,845	189,979	△295	189,684
セグメント利益又は 損失 (△)	3,394	△645	792	3,541	△71	3,469

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。